

令和7年（2025年）10月20日

山口県教育委員会教育長 繁吉 健志 様

山口県青少年教育施設指定管理者選定委員会

委員長 鷹岡 亮

## 山口県十種ヶ峰青少年自然の家に係る指定管理者の非公募による指定について

山口県十種ヶ峰青少年自然の家（以下「青少年自然の家」という。）に係る指定管理者の非公募による指定について、次のとおり審査したので、山口県が設置した青少年教育施設指定管理者選定委員会設置要綱第2条第4号の規定に基づき報告します。

### 1 結果

第2回選定委員会において、青少年自然の家に係る指定管理者について、（公財）山口県ひとづくり財団から提出のあった事業計画書のヒアリングを行った上で審査を行い、当該団体が指定管理者として山口県青少年自然の家条例第10条第7項の規定により非公募による指定が適当であると判断した。

### 2 選定委員会の開催状況

第1回 令和7年8月28日（木）

- ・選定委員会委員長の選任
- ・青少年教育施設概要説明
- ・審査方法決定、審査項目、配点の決定

第2回 令和7年10月20日（月）

- ・応募者の資格要件の確認
- ・応募者ヒアリング
- ・審査

### 3 審査方法

第1回選定委員会において、審査方法（審査項目及び配点等）について審議し決定した。

### (1) 審査項目及び配点等

事業計画の審査項目は、山口県青少年自然の家条例第10条第4項に掲げる基準に沿って、次に示す5項目とし、各項目に細項目を設けて5段階評価とした。

各審査項目の配点の決定に当たっては、青少年教育施設としての機能を継続して確保し、管理運営業務を適正に実施できる者を選定する観点から「項目2：施設の効用を十分に発揮することができるものであること」及び「項目4：管理を安定して行うために必要な人的体制及び経済的基礎を有するものであること」についての項目に重点を置いた。

審査基準	配点	審査項目
1 平等な使用を確保することができるものであること	30	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 平等な使用計画についての考え方</li><li>・ 受入事業の方針</li></ul>
2 施設の効用を十分に発揮することができるものであること	60	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 管理運営の基本的方針</li><li>・ 利用促進に向けた取組</li><li>・ 施設を活用した振興策</li><li>・ 維持管理業務の実施計画</li><li>・ 開館日、入退所時間等についての提案</li><li>・ 使用者や地域住民等の意見等に対する対処方法</li><li>・ 県内の同種の施設や地域との連携</li></ul>
3 管理に係る経費の縮減を図ることができるものであること	30	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 維持管理経費の縮減策</li><li>・ 管理運営に要する経費（指定管理料）</li></ul>
4 管理を安定して行うために必要な人的体制及び経済的基礎を有するものであること	60	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 組織体制、職員の配置計画</li><li>・ 所長及び指導職員の確保と配置等</li><li>・ 職員の指導育成及び研修体制</li><li>・ 施設勤務経験者の活用等</li><li>・ 応募団体の財務状況</li></ul>
5 その他	20	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 個人情報保護に対する対応体制</li><li>・ 使用者の安全対策についての考え方</li><li>・ 災害発生時、事故等への対応についての考え方</li></ul>
合 計	200	—

## (2) 審査

申請者から提出のあった事業計画書等及びヒアリングを基に、各委員が審査（採点）し、全委員の評価を集計した。

## 4 審査結果

### (1) 申請者の資格要件の確認等

申請者の資格要件（主たる事務所を山口県内に有していること、法人税、消費税及び山口県税を滞納していないこと等）の適否については、申請書類及び申請書類に添付された官公署の証明書類等の照合等により、事務局において資格要件を確認した。

### (2) 審査

評価の結果を基に協議を行い、（公財）山口県ひとづくり財団を指定管理者として非公募による指定が適当であると判断した。

審査項目	（公財）山口県ひとづくり財団
1 平等な使用を確保することができるものであること	1 4 2
2 施設の効用を十分に発揮することができるものであること	2 4 6
3 管理に係る経費の縮減を図ることができるものであること	1 4 2
4 管理を安定して行うために必要な人的体制及び経済的基礎を有するものであること	2 8 4
5 その他	9 7
合 計	9 1 1

## 5 非公募理由

（公財）山口県ひとづくり財団（以下「ひとづくり財団」という）は、これまでの管理実績をもとに十種ヶ峰の豊かな自然等を活かした利用促進の取組や施設の機能強化に向けた新たな取組みが提案されるなど今後も利用者のサービス向上と安定した管理運営が期待できる。

また、県教育委員会においては、十種ヶ峰青少年自然の家を青少年の「心の教育」や「人間関係づくり」を学ぶ拠点として、長期自然体験活動をはじめ森のチャレンジコースを活用したA F P Y（豊かな人間関係を築くための考え方や行動の在り方を学ぶ体験学習）などの専門的プログラムの実施に今後も取り組んでいくため、このプログラムを安全かつ適切に提供していく上で不可欠な「指導職員」及び「安全管理者」の配置を指定管理者に求めているが、このような専門性の高い人材を備えた組織体制を確保することができる団体は、ひとつづくり財団をおいて他にない。

＜審査項目ごとの主な質疑内容＞

審査項目	主な質疑
施設の効用を十分に発揮することができるものであること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者が 500 名ずつ増加する見込みとなっているが、具体的な取組内容はあるか。</li> <li>・SDGS の取組とあるが、どのような内容か。</li> </ul>
管理に係る経費の縮減を図ることができるものであること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5 か年収支計画において修繕費が年々増加する理由はなにか。</li> <li>・森のチャレンジコースの維持管理費はどのようにするのか。</li> <li>・光熱水費の配分が違うのはどのような理由か。</li> </ul>
管理を安定して行うために必要な人的体制及び経済的基礎を有するものであること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・森のチャレンジコースによる安全講習受講者の体制はどのように考えているのか。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導主事が入ることのメリットがあれば教えてほしい。</li> </ul>

## 6 山口県青少年教育施設指定管理者選定委員会

委員長	鷹岡 亮	(国立大学法人山口大学教授)
委員	片山 貞実	(国立山口徳地青少年自然の家所長)
委員	徳田 智昭	(一般社団法人中小企業診断士協会)
委員	中谷 仁美	(山口県小学校校長会副会長)
委員	安堂 卓也	(山口県P T A連合会副会長)